


総括整理表			写真1 プロット1		写真2 プロット2		写真3 プロット4
保護林名	剣山生物群集保護林						
管轄森林管理局・署名	徳島森林管理署管内						
所在地	徳島県三好市(名頃谷山国有林 44林班ほか)						
面積	446.02 ha						
設定・変更年	設定:平成25年4月 変更:平成30年4月						


保護林概況写真	保護林の概要等		過去のモニタリング実施状況	
	保護林の概要 (設定目的)	標高約1,050～1,955mに位置し、冷温帯から亜寒帯までの林相の垂直分布を見ることができる。 ダケカンバ、ブナ、ミズナラ等の多様な樹種が生育しており、稜線部はミヤマクマザサの草地となっている。 また、ツキノワグマの生息が確認されている。	結果概要 (調査実施項目・調査手法含む)	・森林の環境としては、良好な状態が維持されている。 ・樹高0.1～0.2mを超える亜木がほとんど生育していない。 ・各プロットにおいてニホンジカが撮影され、食痕や糞といった痕跡も確認。 ・や樹洞を利用するコウモリ類等、自然度の高い樹林環境に依存する種が多く確認。
	モニタリング実施間隔	5年		
	法令等に基づく指定概況	剣山国定公園第1種特別地域・第2種特別地域【自然公園法】 水源かん養保安林、保健保安林【森林法】 鳥獣保護区特別保護地区、鳥獣保護区【鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律】	実施時期・回数	平成24年度、平成29年度

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	保護林内は、全て天然生林。
樹木の生育状況	資料調査/森林詳細調査	いずれのプロットも優占種の生育状況に変化はなく、プロット3では鹿柵を設置したので、今年度と平成29年度とは比較できないが他のプロットでは胸高断面積合計が増加しており、目立って森林の衰退はないと考えられる。
下層植生の生育状況	資料調査/森林詳細調査	いずれのプロットも低木層の植被率が著しく低い。 ニホンジカの食害又はミヤマクマザサの侵入等の影響か、実生及び稚樹が減少している。
野生生物の生息状況	資料調査/動物調査	哺乳類が12科14種、鳥類が21科38種確認された。希少種として哺乳類は など3種、鳥類は など8種を確認した。コウモリ調査では希少種の の1種を確認した。ニホンジカを多数確認しており、植生に影響を与えている可能性があり、引き続き注視が必要である。
論文等の発表状況	資料調査	シコクシラベに関する生態や遺伝構造、ツキノワグマの生息圏に関する論文や学会での発表がされている。
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	ツキノワグマの生息調査フィールドとして利用されている。森林保護員による巡視、歩道の維持管理を行っている。ニホンジカの被害防止柵又は防止ネットが設置されている。他団体との協同で清掃登山や自然保護の啓発を行っている。

評価・課題等	<p>【確認された影響:㉞野生鳥獣 イ病虫害 ㉟外来種 エ温暖化 オ自然攪乱 カその他】</p> <p>保護林内の森林全体では、目立って森林の衰退は見られない。 ニホンジカの影響により森林の更新を困難にしている可能性があるため、引き続きモニタリング調査を継続することが妥当である。 コウモリ類等の希少種を多く確認されたので、今後も引き続きモニタリング調査を実施することが必要である。 を確認しており、行動圏の広がりを注視する必要がある。 特定外来生物のソウシチョウが確認されており、今後の動向に注視する必要がある。</p>
--------	---

様式-37 総括整理表(案)_保護林

総括整理表			写真1 プロット2		写真2 プロット3		写真3 プロット4
保護林名	鎗戸シコクシラベ(遺伝資源)希少個体群保護林						
管轄森林管理局・署名	徳島森林管理署管内						
所在地	徳島県那賀町(鎗戸国有林 140林班ほ小班ほか)						
面積	29.71 ha						
設定・変更年	設定:平成3年3月 変更:平成30年4月						


保護林概況写真		保護林の概要等		過去のモニタリング実施状況	
	保護林の概要 (設定目的)	標高約1,500~1,930mに位置し、亜寒帯に属する。 []のほか、[]等が生育している。		結果概要 (調査実施項目・調査 手法含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・森林の環境としては、全体として良好な状態が維持されている。 ・樹高0.3mを超える[]の稚樹がほぼ生育していない ・自動撮影カメラにニホンジカが撮影され、食痕や糞といった痕跡も確認。 ・樹洞を利用する[]を確認
	モニタリング実施間隔	5年			
	法令等に基づく 指定概況	剣山国定公園第1種特別地域・第3種特別地域【自然公園法】 水源かん養保安林、保健保安林【森林法】 鳥獣保護区【鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律】		実施時期・回数	平成24年度、平成29年度

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	保護林内は、全て天然生林。
樹木の生育状況	資料調査/森林詳細調査	いずれのプロットも優占種の生育状況に変化はなく、胸高断面積合計が若干減少したプロットもあったが目立って森林の変化はない。
下層植生の生育状況	資料調査/森林詳細調査	いずれのプロットも低木層の植被率は低い。 高木層を形成する樹種の実生や稚樹は少ない。
野生生物の生息状況	資料調査/動物調査	哺乳類が9科11種、鳥類が17科28種確認された。希少種として哺乳類は[]など2種、鳥類は[]など7種を確認した。ツキノワグマは確認されなかった。ニホンジカによる森林への被害は無視できないと考えられる。
論文等の発表状況	資料調査	シコクシラベに関する生態や遺伝構造、ツキノワグマの生息圏に関する論文や学会での発表がされている。
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	ツキノワグマの生息調査フィールドとして利用されている。森林保護員による巡視、歩道の維持管理を行っている。ニホンジカの被害防止柵又は防止ネットが設置されている。他団体との協力で清掃登山や自然保護の啓発を行っている。

評価・課題等	【確認された影響:㉠野生鳥獣 イ.病虫害 ㉡.外来種 エ.温暖化 オ.自然攪乱 カ.その他】 保護林内の森林全体では、目立った森林の衰退は見られない。 ニホンジカ影響により森林の更新を困難にしている可能性があるため、引き続きモニタリング調査を継続することが妥当である。 特定外来生物のソウシチョウが確認されており、今後の動向に注視する必要がある。
--------	--

様式-37 総括整理表(案)保護林




総括整理表			写真1 プロット1		写真2 プロット2		写真3 プロット4
保護林名	石鎚山系森林生態系保護地域						
管轄森林管理局・署名	愛媛・嶺北森林管理署管内						
所在地	愛媛県西条市ほか(モチ山国有林ほか)						
面積	4,244.84 ha						
設定・変更年	設定:平成2年3月 変更:平成30年4月						


保護林概況写真		保護林の概要等		過去のモニタリング実施状況	
	保護林の概要 (設定目的)	標高約700～1,982mに位置し、約1,300mの標高差があり、暖温帯から亜寒帯までの林相の垂直分布を見ることができる。 ダケカンバ、ブナ、ミズナラ等の多様な樹種とともに、 稀少な動植物が生育している。	結果概要 (調査実施項目・調査 手法含む)	・いずれのプロットでも胸高断面積は増加しており、森林衰退等の兆候は見られなかった。 ・実生調査でも各プロットの実生及び幼木が少数ではあるが定着しつつある ・ニホンジカによる樹木の剥皮や食痕はほとんど確認されていない ・希少種は、等大径木の幹や枝に着生する種、哺乳類でと といった樹洞等を利用する種、鳥類では が確認された。 ・特定外来生物のソウシチョウを確認	・
	モニタリング実施間隔	5年			
	法令等に基づく 指定概況	石鎚国定公園第1種特別地域・第2種特別地域・第3種特別地域【自然公園法】 水源かん養保安林、保健保安林【森林法】 鳥獣保護区特別保護地区、鳥獣保護区【鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化 に関する法律】 史跡名勝天然記念物(国指定、面河溪)【文化財保護法】			

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	保護林内は、一部人工林が点在しているが、ほぼ全て天然林。
樹木の生育状況	資料調査/森林詳細調査	いずれのプロットでも胸高断面積合計は微減か減少しており、森林は衰退傾向にある。(原因は不明) プロット内の高木層が減少している。
下層植生の生育状況	資料調査/森林詳細調査	低木層の植被率は低く、モミ、ブナ、ケヤキ等主要高木種の稚樹確認数が5年前と比べて減少している。 一部では、イブキザサが繁茂し稚樹や低木の生育を阻害している。
野生生物の生息状況	資料調査/動物調査	哺乳類が11科13種、鳥類が22科43種確認された。希少種として哺乳類はなど2種、鳥類はなど8種を確認した。コウモリ調査は希少種の2種を含む7種 を確認した。昆虫調査は、希少種の4種を含む51科99種を確認した。ニホンジカは複数地点で確認されたが森林への被害は軽微である。
論文等の発表状況	資料調査	イシヅチザクラやシコクシラベに関する生態や遺伝構造に関する論文や学会での発表がされている。
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	植生の垂直分布の案内看板等や植生保護のための登山者の立ち入り禁止柵など啓発用看板が設置されている。森林保護員による巡視、登山道や標識の維持補修、 清掃活動を行っている。

評価・課題等	<p>【確認された影響:㉞野生鳥獣 ㉟病虫害 ㊱外来種 エ温暖化 オ自然攪乱 カその他】 保護林内の森林全体で森林の衰退が見られ、特にブナの後継木が少なく、倒木も目立つ状況である。 主要高木種の稚樹が5年前に比べさらに減少している。 現状では、ニホンジカによる森林への被害は軽微であるが、高標高のプロット4でもしばしば確認されていることから引き続きモニタリング調査を継続することが妥当である。 コウモリ類等の希少種が確認されているので、引き続きモニタリング調査を実施する必要がある。 特定外来生物のソウシチョウを確認しており、今後の動向に注視する必要がある。</p>
--------	--

様式-37 総括整理表(案)保護林

総括整理表						
保護林名	白髪山天然ヒノキ(遺伝資源)希少個体群保護林		写真1 プロット1		写真2 プロット2	
管轄森林管理局・署名	嶺北森林管理署管内					
所在地	高知県本山町(口白髪山国有林 22林班ほか)					
面積	208.54 ha					
設定・変更年	設定: 大正 4年10月 変更: 平成30年4月					

保護林概況写真		保護林の概要等		過去のモニタリング実施状況	
	保護林の概要 (設定目的)	標高約1,130~1,470mに位置し、冷温帯に属する。山塊の大部分が蛇紋岩からなる特殊な地質であり、その上に、ヒノキのほか、ツガ、ゴヨウマツ等の針葉樹が多く生育している。ヒノキの根がたこ足状に広がった、「根下がりヒノキ」(県指定天然記念物)の巨木が点在する箇所がある。また、南南西側山麓には、ブナ、ヒメシャラ、ケヤキ、トチノキ等の落葉広葉樹林がある。	結果概要 (調査実施項目・調査手法含む)	・いずれのプロットでも構成種の胸高断面積は増加 ・高木種の実生や幼木は少なく、ほとんどが0.1m未満の個体。 ・プロット4を以外でニホンジカの生息が確認 ・ニホンジカの食害と見られる樹木の剥皮や食痕が見られた ・希少種は、 大径木の幹や枝に着生する種や樹洞を利用する ・ が確認された。 ・特定外来生物のソウシチョウを確認	
	モニタリング実施間隔	5年			
	法令等に基づく指定概況	白髪山県立自然公園普通地域【自然公園法】 水源かん養保安林【森林法】 鳥獣保護区特別保護地区、鳥獣保護区【鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律】 特別母樹林【林業種苗法】 高知県天然記念物【文化財保護法、高知県文化財保護条例】			
プロット3の根下がりヒノキ					

調査項目	調査手法	結果概要
森林タイプの分布等状況	資料調査	保護林内は、全て天然林。
樹木の生育状況	資料調査/森林詳細調査	プロットによって胸高断面積合計の増減にばらつきがあるものの、ヒノキやツガの胸高直径の経年的比較からヒノキ天然林の衰退等の兆候は特にみられない。
下層植生の生育状況	資料調査/森林詳細調査	いずれのプロットも植被率は低く、低木層を欠くプロットが多い。ヒノキの稚樹はプロットすべてで確認できた。
野生生物の生息状況	資料調査/動物調査	哺乳類が6科8種、鳥類が16科27種確認された。希少種として哺乳類は の1種、鳥類は など5種を確認した。ニホンジカによる森林への被害は現状では軽微と考えられる。
論文等の発表状況	資料調査	白髪山ヒノキ林の樹種構成と立地の関係や更新機構に関する学会発表や論文がある。
事業・取組実績、巡視実施状況等	聞き取り調査	根下りヒノキなどの案内看板や保護柵、歩道が整備されていて、随時のパトロールが実施されている。

評価・課題等	【確認された影響: ㉞野生鳥獣 イ.病虫害 ㉟外来種 エ.温暖化 オ.自然攪乱 カ.その他】 保護林内の森林全体では、目立った森林の衰退等の兆候は見られない。 ヒノキの稚樹はすべてのプロットで確認されており、天然生ヒノキ林の更新については今後のモニタリング調査を踏まえて検討する。 現状では、ニホンジカによる目立った被害は見られないが、引き続きモニタリング調査を継続することが妥当である。 特定外来生物のソウシチョウが確認しており、今後の動向に注視する必要がある。
--------	--